

防災・減災ガイド

～台風による災害から命を守るために～

1 不要不急の外出は避けましょう。

台風が接近・上陸した際に外出すると、暴風による転倒や飛来物等に当たるなどの被害、交通機関の乱れに巻き込まれて帰宅できなくなるなどの恐れがありますので、不要不急の外出は避けましょう。

2 危険箇所、避難場所、避難経路などをあらかじめ確認しましょう。

市町村が作成している「**ハザードマップ**」などで洪水や土砂災害などの危険箇所や避難場所、避難経路などをあらかじめ確認しておきましょう。

各市町村が作成したハザードマップは、国土交通省ハザードマップポータルサイト（<https://disaportal.gsi.go.jp/>）で確認できます。



3 避難情報や防災気象情報を正しく理解し、適切な避難行動を確認しましょう。

台風などによる風水害の際に、市町村が出す避難情報と気象庁が出す防災気象情報は、5段階の警戒レベルで表示されます。**警戒レベル3の避難準備・高齢者等避難開始では避難に時間を要する方（ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等）が危険な場所からの避難の対象となり、警戒レベル4の避難勧告、避難指示（緊急）では全員が危険な場所からの避難の対象となります。**

各種の情報の内容についてあらかじめ確認し、主体的な避難行動をとり、地域の皆さんで声をかけあって、安全・確実に避難できるように準備しましょう。

〈避難情報など〉

警戒レベル	避難行動など	避難情報など
警戒レベル5	既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。	災害発生情報 ^{※2} ※2 災害が実際に発生していることを把握した場合に、可能な範囲で発令（市町村が発令）
警戒レベル4 危険な場所から 全員避難	速やかに危険な場所から避難先へ避難しましょう。公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難勧告 避難指示（緊急） ^{※3} ※3 地域の状況に応じて緊急的又は重ねて避難を促す場合等に発令（市町村が発令）
警戒レベル3 危険な場所から 高齢者などは避難	避難に時間を要する人（ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児など）とその支援者は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を備えましょう。	避難準備・ 高齢者など避難開始 （市町村が発令）
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	洪水注意報 大雨注意報など （気象庁が発令）
警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報 （気象庁が発令）

〈防災気象情報〉

〔警戒レベル相当情報(例)〕

警戒レベル5相当情報

氾濫発生情報
大雨特別警報 など

警戒レベル4相当情報

氾濫危険情報
土砂災害警戒情報 など

警戒レベル3相当情報

氾濫警戒情報
洪水警報 など

（国土交通省、気象庁、都道府県が発令）

これらは、住民が自主的に避難行動をとるために参考とする情報です。



愛知県防災安全局ではTwitterによる防災情報の配信を行っています。



https://twitter.com/aichi_bousai



あいち防災キャラクター防災ナマズン

4 適切なタイミングで避難行動を開始しましょう。

「自らの命は自らで守る」という意識を持ち、適切なタイミングでの避難を心がけましょう。避難指示（緊急）が発令されていなくても、避難勧告が発令され次第、速やかに避難しましょう。

※1 各種の情報は、警戒レベル1～5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。（内閣府〈防災担当〉「警戒レベル4で全員避難!!」より）

新型コロナウイルス感染防止のための避難と備え

1 感染症防止に向けた避難方法を検討しておきましょう。

- ①避難とは難を避けること。安全な場所にいる人まで避難場所に行く必要はありません。
- ②避難先は、小中学校、公民館だけでなく、安全な親戚・知人宅に避難することも検討しましょう。

2 感染症対策用品も準備しておきましょう。

通常の持ち出し品に加えて、感染症対策用品も準備してください。

～感染症対策用品例～

マスク、アルコール消毒液、体温計、石けん、使い捨て手袋、除菌シート
換気のための窓開放に備えた防寒・熱中症対策用品



© JAPAN-DA

自然災害リスクを確認し、保険できちんと備えましょう。



風水害

自然災害の中で、最も身近で被害を受けやすいのが風水害です。

愛知県の主な風水害

東海豪雨

平成12(2000)年9月11～12日愛知県を中心に東海地方の広範囲にわたって大きな被害をもたらした豪雨災害です。2日間の積算降水量は多いところで600mm前後に上り、名古屋市周辺で多数の浸水被害が生じたほか、広い範囲で河道護岸の損壊、がけ崩れ、土石流などによる災害が発生し、交通網が寸断されて、伊勢湾台風以来の大被害をもたらしました。



平成20(2008)年8月末豪雨災害

平成20(2008)年8月28日から30日にかけて、日本列島を縦断する形で停滞していた前線の影響により、南からの湿った空気が愛知県の全域に流れ込み、県内各地で局地的な短時間の非常に激しい雨が降りました。特に岡崎市では、29日には時間雨量146.5mmと全国歴代8位の猛烈な雨を記録し各地で河川氾濫や内水などによる甚大な浸水被害をもたらしました。



Check!!

- ①ご自宅や事業所の立地に潜在する自然災害リスクを確認しましょう。
- ②風水害などの自然災害を補償する保険に加入されていますか。
- ③保険に加入している場合、その補償額は十分ですか。

愛知県と損保ジャパンは『防災取組に対する地域防災力向上の相互協力協定』を締結し、大規模災害に備える地域防災力の向上を推進し、愛知県内の防災への取組活性化に取り組んでいます。

お問い合わせ

愛知県防災安全局防災部
防災危機管理課 啓発グループ

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
TEL:052-954-6190

損害保険ジャパン株式会社
中部業務部

〒460-8551 名古屋市中区丸の内三丁目22番21号
損保ジャパン名古屋ビル 15F
TEL:052-953-3465